

## 1. 最近のニュースや話題から徒然に

3月9日付日本経済新聞に「韓国、最低賃金引上げ」というコラムに目が留まりました。このコラムの大筋は次のとおりです。

- ①韓国で大手CVSが無人CVSの実験を開始
- ②クレジットカードで入店し、カード決済ができ簡単で問題はなさそう
- ③何故、CVSで無人化の実験が進んできたか
- ④マクドナルド等FFでもお客がタッチパネルを操作し注文・決済、従業員は作り渡すだけ

とまあ、このような記事が書かれているのですが、ここからが本題です。文政権の韓国では、過去5年間の最低賃金引上げ率(7.4%)を上回る16.4%の引上げを30年1月に実施したというのです。(余談;日本では3月14日に大手企業が一斉に3%超の賃上げを組合へ回答)

引上げ後の時給は7,530ウオン(円貨換算で約753円)、文政権下で1万ウオンまで最低賃金を引き上げようというのですから驚きです。

ここ数年、日本でも最低賃金が大幅に引上げられ、安倍政権は全国平均で1000円を目指しているとのこと。東京周辺の賃金が高い為に全国平均では1000円ですが、各県の最低賃金は800円以上になることは確実な情勢です。

従軍慰安婦問題でもしかり、いやいや韓国は過激ですね。一挙に16.4%UPとなれば、日本では全国津々浦々から大反対!の大合唱が起ります。今年の賃金引上げの予想率も3%未満という予想が大勢です。コラムは引き続き

- ⑤人件費の高騰対策として、人員を削減し無人化を押し進めよう
- ⑥そうでなければ、CVS業界では経営者や店長が過重労働で倒れかねない

とCVS本部は考えたようです。これは当然でしょう。現に16.4%の最賃UP後の韓国の雇用関連指標は従前と変わっていないとコラムは書き綴っています。

韓国は極端すぎます。政権も保守と革新では真逆のようで、最悪なのは前政権の大統領や幹部を逮捕すると言う強権まで発動するしまつ。

日本には**中道という第三の道を探る知恵**があります。**厳しい経営状態でも労使の知恵をドッと出して経営を安定**させていきたいものです。**知恵出しの努力に上限はない**のです。

## 2. 継続的な繁栄(継栄)を目指して

3月から協会けんぽの保険料が改定されました。大分県では前年の10.17%から10.26%へ増率改定です。全国順位は3位という悪い料率です。ちなみに最低は新潟県の9.63%とか。標準月額報酬200,000円だと、新潟県とは1,260円(年間15,120円)も「余分に健康保険料を支払っている」こととなります(労使折半なので実際はこの金額の1/2の負担)。

大分県庁では「健康寿命日本一を目指します」と主張しています。しかし、最近の調査では健康寿命もまた全国順位を下げたとのこと。県の担当者は「実年齢は前年とほぼ同じで・・・」と苦しい弁明に終始しています。

**会社の健康寿命と言え、「しっかりと利益を稼ぐパワー」ということ**でしょうか。この稼ぐ力が衰えれば「歩くのもやっと」の状態に。これは自転車操業に近づいてきたということか。

「寝たっきり状態に」では倒産間近という知らせです。

**会社も健康寿命を意識したいものです。利益率、稼ぐ力を上げていきたい**ものです。

## 3. 「仕事」と「志事」

「仕事」と「志事」。共に発音は「しごと」。志事という単語が読んでいたある本に出てきました。著者は志事の定義付けを事細かくしていましたが、説明が長くなりますので本稿では言及しません。あしからず・・・。なお、私の解釈を少々。

**仕事は「事に仕える」ことであり、受身的な受止め方**ができそうです。最近では働くということに意義を感じない人も増えているようですが、これは「**自発的、自律的に事に当たっていない**」からではないでしょうか。

もう1つの**志事は「事を行うに際して、先ずは志(こころざし)がある」ということ**。**自発的であり、能動的であり、自律的であり、「しごとの成果」に対する期待値が明確**になっています。働くことに喜びを感じることを間違いなし!

「仕事」と「志事」。似て非なるもの。2つの「しごと」について、私はそのように理解しました。

(※当職事務所のHP・ブログに投稿した記事を転載しました※)